

第 18 回日本音楽療法学会中国支部大会・第 25 回講習会

最終案内

ごあいさつ

新年度が始まり、学校も職場も気忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

来たる 6 月 2 日・3 日には、第 18 回日本音楽療法学会中国支部大会並びに第 25 回講習会の開催を岡山市内で予定しています。

過日のピョンチャンオリンピック・パラリンピックにおいて、日本の選手たちは素晴らしいチームワークで、その成果を上げ多くのメダルを獲得しました。私たち音楽療法士の仕事も、クライアントを取り巻く人々の相互理解がその効果を出していくのには不可欠です。今回のシンポジウムでは、多職種協働でチーム力により、音楽療法としての成果や生活の質の向上、ADLの向上が相乗効果として循環するための良いご意見や、視野拡大のための気づきが得られるのではないかと期待しています。皆様も是非ご参加ください。

大会長 筒井恵子

期 日 : 平成 30 年 6 月 2 日 (土)・3 日 (日)

会 場 : 岡山シンフォニーホール 3 階イベントホール
岡山県岡山市北区表町 1 丁目 5 - 1
TEL 086 - 234 - 2001

大会テーマ : 「共に支えるチームケア～クライアントを取り巻く人々の心を通わせる音楽療法～」

大会準備室 : 第 18 回日本音楽療法学会中国支部大会・第 25 回講習会準備室
〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾 3515
くらしき作陽大学 糟谷研究室内

支部 HP : <http://jmta-cc.org/>

大会 E-mail : mtcyuugokusibutaikai@gmail.com

主 催 : 日本音楽療法学会中国支部

<スケジュール>

6月2日(土) 第25回支部講習会・交流会

12:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:30～
受付 開始	第1講 「病院における癒しの 環境～医療とアートの 融合～」 土井 章弘先生	第2講 「明治期日本音楽療法の 諸相」 光平 有希先生	第3講 「音楽療法実践のヒント ～高齢者のための音楽療 法実践の現場から～」 武田 千代美先生	交流会 ダイニングバー 「クイーン」

6月3日(日) 第18回支部大会

9:00	9:20～ 9:50	10:00～ 12:00	12:00～ 13:10	13:10～ 14:45	14:50～ 15:15	15:15～ 15:45
受付 開始	オープニング 基調講演 「共に支える チームケアの 重要性」	シンポジウム 「共に支える チームケア ～クライアントを取 り巻く人々の心を通 わせる音楽療法～」	会員総会 12:10～ 12:40 昼食休憩	口述発表	ポスター 発表	フィナーレ



第 1 講 : 13:00-14:30

「病院における癒しの環境～医療とアートの融合～」

土井 章弘 先生 (岡山旭東病院 院長)

岡山旭東病院では、脳神経運動器疾患の総合的専門病院として、先端医療を提供すると同時に、療養環境の向上に努めてきた。経営理念の一つに、「快適な、人間味のある温かい医療と療養環境を備えた病院」がある。私は、理念に沿った試みとして医療とアートの融合を目指してきた。音楽・絵画・生け花・庭園と草花・温室・水槽の魚・料理・ガーデニング教室・あかいはな道化教室の開催など、人に快いものは何でも取り入れてきた。

病院に於ける音楽は、病院内の BGM (バックグラウンドミュージック)・院内コンサートなどである。当院では、院内コンサートの開催は 311 回を数える (2017.12 時点)。入院患者を中心としたフルケアコンサート (看護師・介護福祉士・リハビリスタッフの介助) と地域住民も含めた一般向けコンサートがある。演奏者はボランティア活動の方が主体であるが、プロにお願いすることもある。

当院のアートを通じた癒しの環境の試みを中心にお話したい。

第 2 講 : 14:40-16:10

「明治期日本音楽療法の諸相」

光平 有希 先生 (国際日本文化研究センター プロジェクト研究員)

音・音楽を治療や健康促進、維持する手段として用いることの起源は、日本を含み、洋の東西を問わず古代にまで遡ることができる。とりわけ日本の医学分野では、江戸期以降に予防医学や各種疾病に対する治療の一環として、体系的に音楽を用いることが模索された。この長きに亘る模索は、西洋医学及び西洋音楽療法思想が多量に流入してきた明治期に転換期を迎え、明治後期には正に「音楽療法」という名称のもとで、理論のみならず本格的な実践にまで推し進められていった。

本講義では、明治期に刊行された音楽療法関連著作や、同時代の音楽療法実践記録といった一次史料に焦点を当てながら議論を展開する。その上で、明治期音楽療法の変遷及び独自性について紹介し、現在、日本で行われている音楽療法の形成過程を考える一つの場としたい。

第 3 講 : 16:20-17:50

「音楽療法実践のヒント～高齢者のための音楽療法実践の現場から～」

武田 千代美 先生 (釜瀬クリニック 音楽療法士 日本音楽療法学会中国支部長)

音楽療法に携わって長い年月が経過しました。これまで色々な音楽療法の方法を学び、自分なりに取り込んで実践に活かしてきましたが、皆様より少し多いこの経験をお話して、実践のヒントにして頂けたらと考えます。まず、介護保険制度の中で音楽療法士ができる役割について考え、アセスメント、プログラムの組み立て、評価の方法を紹介したいと思います。

そして、実践について、対象者の変化に触れながら、色々な方法を提示し考えたいと思います。学会が行った特別プロジェクト研究に、中国支部からは 2 施設が参加しましたが、私が参加した研究について紹介し、音楽療法研究の方法についても考えます。

オープニング

基調講演 「共に支えるチームケアの重要性」

—筒井 恵子 大会長—

プロフィール

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業。山陽女子高等学校、岡山県立大学、くらしき作陽音楽大学、中国短期大学で非常勤講師を勤めた。

また平成1年より病院でコンサートを主宰し、音楽療法に取り組む。平成8年から自施設で高齢者の音楽療法を始め、市内の公民館や認知症カフェなど地域の支援活動に参画。現在、鴻仁福祉会特別養護老人ホーム愛光苑理事長。川崎医療福祉大学非常勤講師。日本音楽療法学会認定音楽療法士。

大会企画シンポジウム

共に支えるチームケア～クライアントを取り巻く人々の心を通わせる音楽療法～

コーディネーター	糟谷 由香	(くらしき作陽大学)
シンポジスト	馬渡 日出男	(慈圭会 慈圭病院)
作業療法士の立場から	栗元 恵子	(特別養護老人ホーム 愛光苑)
看護師の立場から	林 恵子	(ダウン症の娘をもつ保護者)
保護者の立場から	上田 瞳	(社会福祉法人 四ツ葉会)
音楽療法士の立場から		敬称略

企画主旨

我々医療・福祉分野に身を置く専門職は、クライアント（CI）により質の高いケアを提供するために、CIのご家族や他職種の専門家、現場の職員、地域の人々などCIを取り巻く人々との連携あるいは協働が求められます。音楽療法士にとっては、CIが音楽療法以外に受けている治療やケアの役割やねらいを把握した上で音楽療法の役割を見出すために、また音楽療法で取り組んだ成果がCIの日常生活で活かされることによってCIの生活の質が高まるように、CIを取り巻く人々との「つながり」を作り、その関係を深めていくことも専門職としての責任であると考えます。

2013年に中国支部で担当しました全国大会（米子開催）では、大会シンポジウムのテーマを「音楽療法における新たな『つながり』」とし、新たな視点でみる「つながり」について、どうつながるのか、どうつなげるのかという内容で議論が展開されました（学会HPに要約掲載中）。今回は日々の臨床に焦点を絞り、チームケアの実現のために音楽療法士に求められることや音楽療法の現場で望まれることなどを考えるシンポジウムにしたいと考えています。特に、音楽療法における「ねらい」や「どうCIの日常につながるのか」をCIご本人やCIを取り巻く人々に理解していただき、よき協力者、協働者となっていただくためには、我々音楽療法士に何が求められるのか。我々にある説明責任として、何をどう伝えていくべきなのか。こういったことについて、さまざまなお立場のパネリストをお迎えし、会場の皆様からのご意見等も受けながら討議したいと考えています。

他の関連専門職と比べたとき、音楽療法の特徴のひとつとして「音楽によって人々を結びつけ、つながりを強化することができる」ことが挙げられます。これは古くより知られている音楽が集団にもたらす作用です。現場によりますが、音楽療法では音楽を使って、CI ご本人だけでなくそのご家族や関係する専門職やスタッフを巻き込んで 1 つの目標（介入目標に限らず）に向かわせることができるものでもあると考えます。音楽療法の現場で、音楽療法の現場以外で、チームの一員として音楽療法士ができることを皆様とともに考える機会にしたいと考えています。

研究発表

今回の研究発表は、発表者の方々およびコメンテーターのご協力を得て、スーパービジョン付きの研究発表とさせていただきますことになりました。会員の皆さまの学びの場となるよう、コメンテーターの先生方より、当日の発表内容に対するコメントに加え、事例研究の意義や抄録としてのまとめ方などについてご指導いただきます。今後の研究発表に向けて、学びを深められる時間になることと思います。

口述発表は 発表 15 分、質疑応答 5 分、コメント 25 分 (計 45 分)
 ポスター発表は 発表 10 分、質疑応答 5 分、コメント 10 分 (計 25 分)
 の持ち時間で行います。なお、ポスター発表の在席時間は 30 分とします。

発表者は 3 日 9:00～9:30 の間に発表受付を済ませ、口述発表者はメディアチェックを受けてください。ポスターは 9:00～9:30 に掲示、15:15～16:00 に取り外してください。

口述発表

A-1	13:15	志野佐知子	相互交流を目的とした生活自立ランク J に対する集団音楽療法～なじみの歌を生活に取り入れる事の効果について～
A-2	14:00	石井 未来	理学療法士・作業療法士と協同で実施した高齢者小集団音楽療法ー多職種協同の利点と今後の課題ー

ポスター発表

B-1	14:50	青砥 沙希	集団音楽療法における A さんの反応と効果
B-2	14:50	岩永十紀子	知的障害者の他者との交流を円滑にする音楽療法

フィナーレ

大会の締めくくりは、楽器と〇〇〇〇〇でフィナーレを飾りましょう！



参加者の皆様へ

受付

- ・ イベントホール前にて受付をいたします。
- ・ 受付で名札ホルダーをお渡しいたしますので、期間中は必ず着用してください。名札を着用されていない場合には、会場への入場はできませんのでご了承ください。

講習会

- ・ 各講習会終了後に、受講証を発行します。講義開始後 20 分以上遅刻された場合には発行できません。
- ・ レポートの提出については、講習会資料の「講習会レポートの作成について」をご参照下さい。

録音・録画

- ・ プライバシー保護のため、講習会・大会期間中、会場での録音、録画、写真撮影は厳禁です。

昼食

- ・ 昼食は各自ご持参ください。(会場周辺に、飲食店、コンビニエンスストア等もございます)
- ・ イベントホール内で飲食ができます。

ゴミ

- ・ 期間中のゴミは、各自でお持ち帰りください。

その他

- ・ 会場内では、携帯電話の電源をお切りください。
- ・ 会場内は全面禁煙です。

参加のご案内

1. 参加申し込み方法について・・・以下の2通りの方法で申し込みができます。

1) メールでの申し込み

日本音楽療法学会中国支部ホームページ <http://jmta-cc.org/>へアクセスし申し込みフォームへ記入の上、大会準備室 E-mail : mtcyuugokusibutaikai@gmail.com までメール添付でお申し込みください。

2) 郵送での申し込み

一次案内に同封した「参加申込書」に必要事項をご記入の上、大会準備室まで郵送してください。

2. 申し込み締め切り

平成30年4月30日(月)

5月1日以降の参加申込は当日扱いとなりますので、ご注意ください。

3. 参加費は、当日受付にてお支払いください。

	2日間	2日(土)のみ	3日(日)のみ	当日受付	交流会
会員	4000円	3000円	2000円	各500円 プラス	3500円
学生会員	2000円	1500円	1000円		
一般	6000円	5000円	3000円		
一般学生	3000円	2500円	1500円		

4. 交流会について

6月2日(土)18時30分よりダイニングバー「クイーン」にて交流会を開催いたします。
是非ご参加ください。

交流会参加費は3500円で、当日のキャンセルはできません。

5. 託児について

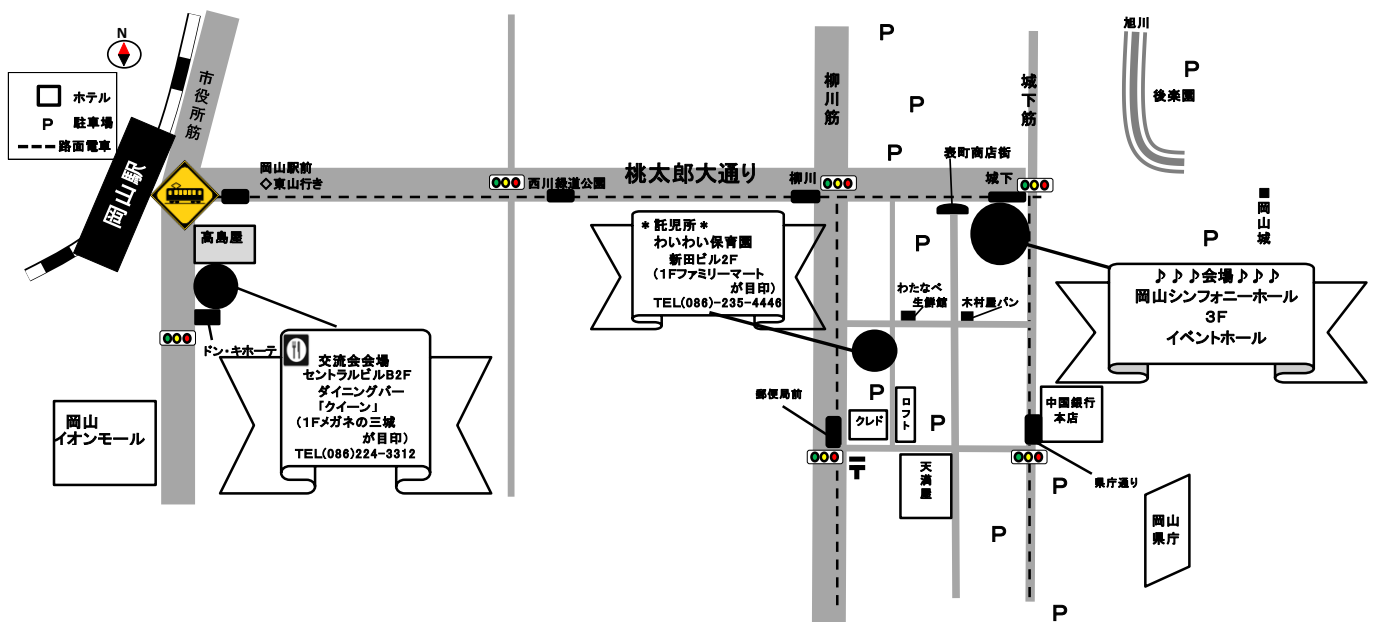
地図に掲載しています「わいわい保育園」(TEL 086-235-4446)は講習会・大会当日託児が可能です。岡山シンフォニーホールと提携していますので、一時預かりの割引があります。大会・講習会受講証などを提示してください。

託児を希望される方は直接お問い合わせ・お申込みください。

6. アクセス・交通案内

近隣の駐車場には限りがあります。公共の交通機関でお越しください。

岡山駅東口より	路面電車(東山行き)	城下停留所	下車すぐ
	徒歩	約15分	
	タクシー	約5分	



お申し込み・お問合せ先

第18回日本音楽療法学会中国支部大会・第25回講習会 準備室

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾 3515

くらしき作陽大学 糟谷研究室

E-mail : mtcyuugokusibutaikai@gmail.com